

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「3年間で生徒が伸びる高校、先生をめざすなら高槻北高校」を標榜しつつ、生徒一人ひとりの高校生活の充実と、学力の向上・進路目標の実現を図る教育を進めるため、「北高チャレンジプラン（生徒の3年間を見据えた学校運営計画）」を作成することを通して、以下の4点についての学校像の実現をめざす。

## 1 すべての生徒が3年間で学力をより一層向上させ、進路希望を実現する学校

生徒一人ひとりが、自ら「教わり育つんだ（教育）」という意識を確立させ、主体的学習習慣の定着を図ることができるよう、教師が積極的にサポートする中で、すべての生徒の学力向上と進路目標の実現を図る。

## 2 充実した学校生活を送り、「行って良かった」と思える学校

学校行事・部活動・校外活動・地域連携行事等、あらゆる場面で生徒自らが積極的・主体的に参加することで、自律性・協調性の育成を図る。

## 3 学校運営体制を改善し、教職員が積極的に学校教育活動・学校改善に取り組める学校

あらゆる学校教育活動における課題の改善を積極的に推進することをめざして、学校教育活動におけるICT化の推進や校内組織・制度の見直し等により、職務のスリム化・平準化を図る。

## 4 保護者・地域等と連携し、共に生徒の主体的成長をサポートできる学校

あらゆる機会を通じて保護者・地域との連携を図ると共に、情報発信の積極化を図る等、地域に根ざした学校作り、開かれた学校作りを推進する。

## 2 中期的目標

## 1 学力・進学保障—生徒のモチベーションを向上させ、学力の向上と進路目標の実現を図る

## (1) 教志コース（教員養成系コース）を定着させる。

ア 1年生に対して、コースの意義・目的や具体的学習内容等の理解を図り、正しく選択することができるような指導方法を定着させる。

イ 2年生から開設する専門科目の内容や具体的運営方法について、充実した芸術科の施設・設備の活用を含めて内容の充実を図るとともに、クラス編成・時間割編成に向けての方策を確立させる。

※ 教志コースを含めて、志高く（高校での目標を持って）入学してきた生徒の割合を60%以上にする。

※ 平成25年度入学生のうち、コース選択生徒の卒業時の満足度を80%以上にする。

## (2) 学力向上・進路目標実現のための3年計画（「北高スタンダード」）を構築する。

ア 教科ごとに教科・科目の目標・到達度を設定する。

イ 授業の相互見学制度等を導入し、教科教育力の向上を図る。

ウ 積極的に上位校を狙う生徒や遅進生徒に対する取組の現状を集約し、対象生徒の立場に立って取組をコーディネートする（エと連動させる）。

エ 北高スタンダードの構築：学力向上・進路目標実現に向けた取組を3年計画に落とし込み、それぞれの取組についての意義・目的、目標について生徒・保護者に周知する。

※ 生徒向け学校教育自己診断における学力向上・進路目標実現に向けての生徒の努力度を「よくあてはまる」、「あてはまる」で70%以上とする。

※ 生徒向け学校教育自己診断における平日の家庭学習時間を1年生120分以上、2年生140分以上、3年生180分以上とする。

（平成25年度はそれぞれ56分、48分、153分）

※ 進学実績について、平成26年度卒業生までに、4年制大学進学希望者数に対する産近工龍（工は大工大）等の大学への進学率を40%以上（平成25年度は37%）に、関関同立、国公立大学等への進学率を25%以上（平成25年度は17%）とする。

## 2 学校生活—規範意識の高揚を図り、安全・安心な学校生活を送ることのできる学校作り

## (1) 規範意識の高揚を図る—遅刻、服装、頭髪、装飾品、自転車乗車マナー等。

## (2) 安全・安心で意欲的な学校生活を推進する—あいさつ指導、環境（学習・生活）整備。

## (3) 行事・取組等の生徒主体化を図る。

※ 生徒向け学校教育自己診断における高校生活における満足度を「よくあてはまる」、「あてはまる」で90%以上とする。

## 3 学校運営—プロとしての教員集団として組織化し、機動力のある学校運営を行う

## (1) 生徒の3年間を見据えた学校運営計画「北高チャレンジプラン」を構築する。

## (2) 実務提要作成—学校内規を全面的に見直し実務提要化するとともに、それに関連する資料を電子データで管理する。

## (3) ICT先進校化—校務運営システム（府教委）と校内LANを最大限活用して生徒情報総合管理システムを構築し、校務運営の効率化を図る。

## (4) 新任・若手教員に地元の小中学校などでの研修を通して、力量の向上を図る。

※ 「北高チャレンジプラン」と実務提要を今年度完成させ、ICTは来年度完成させる。その後の改善は継続する。

## (5) 教志コース導入、教育課程改編、教科教育力の向上などを視野に入れた施設設備の改善・教材教具の充実を図る。

## 4 学外連携—保護者・地域から信頼され、連携して共に生徒の成長をサポートする

## (1) 広報活動の強化—学校説明会・ホームページ・メールマガジン・北高NOW等を通して、本校の取組の周知を図る。

## (2) 地域連携の取組の定着・推進—地域行事への参画、北高アカデミアの実施等を通して、より一層地域からの信頼を高める。

※ それぞれの取組を継続するとともに、各取組の内容の充実を図る。

※ 北高アカデミアの参加者数を180人以上（昨年度は128人）、満足度を90%以上とする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学力・進学保障】</b></p> <p>・教志コース生の満足度は高く、今後内容を充実する。また、全校生徒に対しては、「北高スタンダード」をしっかり活用していきたい。</p> <p><b>【学校生活】</b></p> <p>・高校生活の満足度は昨年度と同数値であったが、学校行事に主体的に取り組むようになった。</p> <p><b>【学校運営】</b></p> <p>・実務提要の電子ファイル化を行った。今後、活用に努めていく。</p> <p>・施設・設備の充実を進めていく。</p> <p><b>【学外連携】</b></p> <p>・保護者の満足度、進路資料への評価は着実に上昇している。</p> <p>・北高アカデミアへの期待度・満足度が上がっている。</p>	<p><b>【第1回（6月21日開催）】</b></p> <p>・教志コース生の進路実現に向けてのサポートをしっかりとしていく。</p> <p>・授業力向上のため、近隣小中学校で行う研究授業の機会を活用してほしい。</p> <p>・トイレ等施設設備の充実等は、要望を出すなどして、生徒の声に応じていく姿勢を大事にしたい。</p> <p><b>【第2回（11月22日開催）】</b></p> <p>・携帯電話を利用する時間を勉強する時間に変えていくために、生徒に議論させるという方法もある。</p> <p>・保守的にならず、様々な取組をしているところが評価できる。今後、組織的に取り組んでいってはどうか。</p> <p><b>【第3回（2月14日開催）】</b></p> <p>・高槻市内の中学では、全教室に電子黒板が設置され、それを活用した授業を展開している。若い教員が増えている今が、授業を変えていくチャンスである。</p> <p>・携帯に対する指導について、中身を見直すことも必要ではないか。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学力・進学保障	<p>「教科教育力の向上強化年」</p> <p>(1) 教志コースの定着</p> <p>(2) 生徒の学力の向上と進路目標実現に向けての組織力の向上</p>	<p>(1) 生徒のモチベーション向上</p> <p>ア 教志コース委員会メンバーが中心となって、1年生(38期生)に対するコース選択に向けての取組の具体について計画し、実践する。</p> <p>イ 教志コース委員会メンバーがそれぞれ担当する専門科目の内容や具体的運営方法を構築し実践する。</p> <p>(2) 教科教育力向上のためのシステム構築</p> <p>ア 教科ごとに教科・科目の目標・到達度を設定する。</p> <p>イ 授業の相互見学制度等を導入し、教科教育力の向上を図る。</p> <p>ウ 北高スタンダードの構築：学力向上・進路目標実現に向けた取組(下記①～⑥等)を3年計画に落とし込み、それぞれの取組についての意義・目的、目標等について生徒・保護者に周知する。</p> <p>① 定期考査・学力生活実態調査・模試</p> <p>② A・B講座・チャレンジ合宿等の補習・講習</p> <p>③ 懇談(生徒・保護者・三者・クラス・学年)</p> <p>④ 科目・コース選択説明会・進路別説明会・大学見学会</p> <p>⑤ 担任会・拡大学年會・教育相談委員会</p> <p>⑥ 追認関係・判定会議</p> <p>エ めざす学習環境のための教室環境と授業規律の確立</p>	<p>(1)</p> <p>アイ 教志コース生としての取組の満足度80%以上。</p> <p>○ 平成26年度入学生のアナケート結果における、目標(教志コースを含む)を持って本校を受検した生徒の割合50%以上。</p> <p>(2)</p> <p>ア 設定したものをホームページに掲載することができたか。</p> <p>イ 教員の相互見学率100%、生徒の授業満足度80%以上。</p> <p>ウ 完成度</p> <p>○ 生徒向け学校教育自己診断における平日の家庭学習時間を1年生60分以上、2年生70分以上、3年生160分以上とする(平成25年度はそれぞれ56分、48分、153分)。</p> <p>○ 進学実績について、平成26年度卒業生までに、4年制大学進学希望者数に対する産近工龍等の大学への進学率を40%以上(平成25年度は37%)に、関関同立、国公立大学等への大学の進学率を25%以上(平成25年度は17%)とする。</p>	<p>(1)</p> <p>アイ 午前中の体験や学校説明会での活動等、昨年度より活動を多様化した。満足度は、2年70.2%、3年生73.6%であった。(○)</p> <p>○ 81%であった。目標を達成した。(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア シラバスを作成したが、ホームページ掲載に至っていない。(△)</p> <p>イ 教員の相互見学率92%、生徒の授業満足度77.9%。(△)</p> <p>ウ 北高スタンダードの構築を行った。(○)</p> <p>○ 平日の家庭学習時間は、1年45.6分、2年68.2分、3年174.4分と、達成できなかった。(△)</p> <p>○ 産近工龍への進学率は21.4%、関関同立、国公立大学等への進学率は8.6%である(合格者の割合はそれぞれ40.6%、12.3%である)。(△)</p>
学校生活	<p>「時を守り、場を清め、礼を正す」</p> <p>(1) 規範意識の高揚</p> <p>(2) 安全・安心で意欲的な学校生活の推進</p>	<p>(1) 遅刻・制服・自転車・携帯・自主活動指導</p> <p>ア 日常の指導や身だしなみマナー向上週間、および保護者へのメールマガジン等を活用すると共に、一か月で3回以上遅刻した生徒に対する早朝登校指導や、常習者に対する指導強化を行うなど、頭髪、装飾品も含めた規範意識の高揚を図る。</p> <p>イ 年度当初や生徒指導キャンペーン及び外部機関を活用して、自転車乗車マナーの向上を図る。</p> <p>ウ 携帯を研修や啓発活動により正しく利用させる。</p> <p>エ 部活・学校行事を生徒主体で取り組ませる。</p> <p>(2) 清掃・環境・挨拶</p> <p>ア 教室・廊下などの清掃活動の徹底。</p> <p>イ 安心・安全で充実した学習環境・生活環境を確保するため、安全点検を定期的に行うと共に施設・設備の改善を図る。</p> <p>ウ トイレの改修(学校評価アンケートでの要望が最も多い)</p> <p>エ 全教職員・生徒があたり前に挨拶ができるよう、集会や朝の正門など、あらゆる機会を活用して指導する。</p> <p>オ 職員の救急講習全員参加</p> <p>カ 献血活動(文化祭時)の啓発</p> <p>キ 支援カードの利用による支援教育の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 遅刻者数を1日平均30回(平成25年度は31回)以内にす。</p> <p>イ 自転車マナーが向上したと感じている生徒80%以上。</p> <p>ウ 携帯指導件数年間20件以内</p> <p>エ 主体的に取り組めた生徒70%以上。</p> <p>○ 生徒向け学校教育自己診断における高校生活における満足度85%以上(平成25年度は83%)。</p> <p>(2)</p> <p>アイ 生徒向け学校教育自己診断における学習環境・生活環境の満足度70%以上(平成25年度は68%)。</p> <p>ウ 生徒のトイレ改善認識50%以上。</p> <p>エ 保護者向け学校教育自己診断における挨拶をしている生徒70%以上(平成25年度は69.3%)。</p> <p>オ 職員の救急講習全員参加</p> <p>カ 生徒の献血意義の認識70%以上。</p> <p>キ 支援カード有効活用の認識50%以上。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 今年度の遅刻者は1日平均22回となり、目標を達成できた。(○)</p> <p>イ 今年度雨天時のカッパ着用を強く指導したが、79.9%がマナーが向上したと答えた。(○)</p> <p>ウ 携帯電話指導は年間1件。目標を達成した。(○)</p> <p>エ 主体的に取り組めた生徒85.3%で、目標を達成した。</p> <p>○ 高校生活における満足度83.8%と昨年度と同数値であった。(△)</p> <p>(2)</p> <p>アイ 満足度は77.4%(◎)</p> <p>ウ トイレの改善認識は、45.2%と低い。改善要求が多い。</p> <p>エ 75%であった。(○)</p> <p>オ 56名参加した(83.6%)。(△)</p> <p>カ 57%であった。(△)</p> <p>キ 教員の支援カード認識は36.4%。(△)</p>
学校運営	<p>(1) 「北高チャレンジプラン」の作成</p> <p>(2) 実務提要作成</p> <p>(3) ICT先進校化</p> <p>(4) 新任・若手教員の力量向上</p> <p>(5) 施設・設備の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「北高チャレンジプラン(生徒の3年間を見据えた学校運営計画)」を教職員用、生徒・保護者用として作成する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 学校内規を全面的に見直し実務提要化するとともにそれに関連する資料を電子データで維持・管理する。</p> <p>(3)</p> <p>ア 校務運営システム(府教委)と校内LANを最大限活用して生徒情報総合管理システムを構築し、校務運営の効率化を図る。</p> <p>(4)</p> <p>ア 新任・若手教員の力量向上をめざして、校内研修・小学校に出向いての研修・高槻島本地区新任研修などを実施する。</p> <p>(5)</p> <p>ア 日常的な生徒情報の共有、教員間の意思疎通の深化をめざしての職員室改造。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 素案として完成させる。</p> <p>(2)</p> <p>ア 素案として完成させる。</p> <p>(3)</p> <p>ア 積極的に活用する教職員70%以上。</p> <p>(4)</p> <p>ア 新任・若手教員の満足度80%以上。</p> <p>(5)</p> <p>ア 教職員の改善認識70%以上。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 当初計画した内容を北高スタンダードに一本化して完成した。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア 規定・様式を電子ファイル化し、索引を作成した。(◎)</p> <p>(3)</p> <p>ア 積極的に活用している教職員は79.2%。(○)</p> <p>(4)</p> <p>ア 満足度は66.7%。指導を継続して行っていく。(△)</p> <p>(5)</p> <p>ア 改善認識62.5%であった。(△)</p>
学外連携	<p>(1) 広報活動の強化</p> <p>(2) 地域連携の取組の定着・推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校説明会・ホームページ・メールマガジン・北高NOW等を通して、本校の取組の周知を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア 地域行事への参画、北高アカデメイアの実施等を通して、より一層地域からの信頼を高める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校説明会—8回以上実施・(学外での)教員参加率40%以上、アンケートによる参加者満足度90%、ホームページ50更新及び全部活・全行事更新、ホームページ5万アクセス、メールマガジン40配信、北高NOW8回発行。</p> <p>(2)</p> <p>ア アカデメイア—参加者数160人以上(昨年度は128人)、満足度90%以上。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校説明会は、府立高校関係と校内実施7回。教員参加率43%、参加者満足度95%、ホームページの更新に力を入れ、部活動113回更新、アクセス5.8万件、メールマガジン60回配信、北高NOW7回発行。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア アカデメイア参加者164名、満足度99.4%。(◎)</p>